

梅雨の災害リスクに備えましょう

問い合わせ 防災安全課 防災対策係 ☎内線519

避難情報が改定されました

国の災害時の避難情報が見直され、今年の梅雨期から運用開始します。災害リスクのある地域に住む人、特に高齢者等(※)は注意が必要です。

(※高齢者等とは…高齢者、障がいのある人、妊婦、乳幼児のいる家庭、外国人など)

【改定された避難情報】

警戒レベル	市民がとるべき行動	行動を促す情報	旧情報
5	“命”の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保	災害発生情報 確認したとき
4	「警戒レベル4」までに全員避難！		
	危険な場所から 全員避難	避難指示	避難指示(緊急) 避難勧告
3	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	避難準備・高齢者等 避難開始
2	自らの避難行動 を確認する	大雨・洪水注意報 (気象庁)	大雨・洪水注意報 (気象庁)
1	災害への心構え を高める	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

市が発令する警戒レベルと避難情報の説明

警戒レベル1・2は気象庁が発令、警戒レベル3・4・5は太宰府市が発令します。

・警戒レベル3「高齢者等避難」

危険のある場所にお住まいの高齢者等は、避難に時間がかかるので避難をしましょう。

・警戒レベル4「避難指示」

危険のある場所、特に土砂災害の危険のある場所やその周辺、御笠川浸水想定区域や周辺の低い土地に住む人は、全員避難してください。

・警戒レベル5「緊急安全確保」

土砂災害や浸水が切迫または発生しました。まだ、避難していない人は、命の危険があります。直ちに、安全確保のため自宅の上層階や近所の頑丈な建物へ移動してください。

市内の危険な場所は、 避難情報に注意するとともに早めの避難を心がけましょう。

宝満山・四王寺山沿い

土砂災害の危険があり、特別警戒区域(レッドゾーン)・警戒区域(イエローゾーン)に指定されている区域が多いです。

御笠川沿い・御笠川と合流する鷹田川や大佐野川沿い

氾濫すると最大3m未満まで浸水する浸水想定区域があります。

※「市の災害情報等配信サービス(V-net)」[県の防災メールまもるくん]に登録すると避難情報が自動で届きます。「自らの命を守る大切な情報」です。必ず登録しましょう。

【災害情報配信サービス(V-net)の試験配信をします】

6月4日(金)に、V-net登録者全員に試験配信します。登録内容に変更がある場合、防災安全課へ届け出てください。また、試験配信が受信できなかった場合も連絡してください。

避難行動要支援者避難支援制度に登録しませんか？

○制度の内容は

災害時、避難に助けを必要とする人を名簿に登録し、いざという時のために、市や防災関係機関などが平常時から情報共有することで、避難の手助けや安否確認などに役立てる制度です。

○登録対象者

次に掲げる人のうち、自力では避難が難しく、地域の人の助けを希望する人が対象です。ただし、施設や病院などに長期入所・入院する人は対象になりません。

- ①75歳以上の一人暮らしの人、または75歳以上のみの世帯
- ②介護保険の要介護3以上の人
- ③身体障害者手帳1・2級の交付を受けている一人暮らしの人
- ④療育手帳Aの交付を受けている一人暮らしの人
- ⑤精神障害者保健福祉手帳1級の交付を受けている一人暮らしの人
- ⑥その他、必要と認めた人(日中一人の高齢者、難病患者、妊婦、外国人など)

○申請方法

7月頃、対象となる人宛てに、申請書と制度のチラシを郵送します。市(防災安全課、福祉課、介護保険課、高齢者支援課、子育て支援課)に申請書を提出してください。

なお、災害対策基本法第49条の11に基づき、関係者に対して、避難支援に必要な個人情報を共有し活用しますので、個人情報提供への同意が必要です。

○注意事項

本支援は、避難支援者による任意の協力によるため、名簿登録により災害時の支援を保証するものではありません。また、誘導などについて責任を負うものではありません。

コロナ禍の避難ポイント

①収容人数を考えた避難所の開設

災害や被災者の状況によって、収容人数を考慮したうえで指定避難所を開設します。

②避難者の健康状態の把握

「避難所運営マニュアル」に基づき、避難者の健康状態を確認します。
毎日検温を行い集団感染(クラスター)の発生を防止します。

③十分な換気とスペースの確保

避難所内は、十分な換気に努めスペースを確保できるようにします。

④手洗い、咳エチケットなどの基本的対策

手洗い、マスク着用による咳エチケット、うがいなど基本的な感染対策を徹底します。

⑤避難所の衛生環境の確保

避難所内の物品や施設は、定期的に清掃・消毒し衛生環境を整えます。

⑥発熱の症状が見られるとき

発熱の症状がみられた場合、専用スペースを確保して、一般の避難者とはゾーンや動線を分けます。

⑦避難所には行かない選択

被災リスクがなく安全な生活の確保ができる場合、必ずしも避難所に行く必要はありません。

⑧親戚・友人宅などへの避難の検討

避難所が「密」状態になることを防ぐため、可能な場合、安全な立地の親戚や友人宅、ホテルなどへの避難も検討してください。

KBC「d ボタン広報誌」で随時、情報発信中！

災害情報や安全に関わる情報を、1チャンネルKBCのdボタンを押すと確認できます。市から市民の皆さんへ、知りたい情報を素早く簡単に得られるよう届けます。

自宅のテレビのリモコンで、チャンネルを合わせ、「dボタン」をプッシュ！

